

かけはし



発行：峡南教育事務所地域教育支援担当

所在地：南巨摩郡富士川町鯉沢 771-2

TEL：0556-22-8154

FAX：0556-22-8144

HPでもご覧になれます URL：<http://www.pref.yamanashi.jp/kyoiku-mk/index.html>

平成25年度 峡南地区 異校種連携セミナー 開催

平成25年度の峡南地区異校種連携セミナーが、11月26日、身延町総合文化会館において82人の出席者を迎えて開催されました。今年のテーマは「防災」。

先の東日本大震災では、これまでの想定をはるかに超える巨大な地震と津波によって大きな被害がもたらされました。数多くの尊い生命が奪われ、子どもたちを取り巻く防災環境の見直しも急務とされています。山梨県でも特に峡南地域は、発生が予想される東海地震の震源に近いことから大きな被害が想定されており、学校のみならず地域や家庭においても備えを万全にしておくことが一層重要となっているといえます。現在、それぞれの学校において、防災マニュアルの見直し、防災管理体制の確立、子どもたち自身による実践的で効果的な避難訓練等が精力的に進められています。また一部では、校種を越えた連携による地域的な防災指導の体制づくり、実際の状況に応じた保護者への引き渡し訓練の実施などの試みも始まっています。今年のセミナーでは、こうした課題意識のもとで、防災に向けていかに取組んでいくべきかを考える機会としました。

冒頭の主催者挨拶で、丹澤葉子地推協会長が、東日本大震災以来、自ら防災意識を持ち続けている様子を述べ、今年度のセミナーの意義を強調しました。続く実践発表では、昨年度文部科学省の「実践的防災教育推進事業」の指定を受けて取組んだ市川南小学校と市川南中学校の事例が紹介されました。両校は、緊急地震速報受信システムを取り入れたより実践的な避難訓練を行うとともに学校防災アドバイザーによる小中連携の防災学習会の開催、これをもとにした各家庭との連携のためのアンケートの実施、さらに避難訓練の際に子どもたちの行動をモニターした結果に基づく課題の検証など、多角的な実践を進めてきました。こうした中で

発表主題である、「**家庭・地域と連携した防災教育～自分の命は自分で守る(知識から行動へ)～**」に見られるように、子どもたちが主体的に考えて行動できる防災のあり方を追求。そして、道徳・各教科・総合的な学習の時間・特別活動における関連事項それぞれを結んで体系化させた防災教育の全体計画を立てました。その実践を進める中で、子どもたちが防災について自分で考えて備えることができる力、災害発生に対してマニュアルに頼らないで対処できる判断力や行動力を育むことができたとのことです。



丹澤会長の主催者挨拶



小林奈都夫氏の講演の様子

続けて行われた講演会では、「**被災地でのボランティア活動から学ぶ～いつ起きてもおかしくない東海地震に備えて～**」と題して、NPO法人の活動などを通して数々の災害現場に臨んだ小林奈都夫氏(山梨県災害ボランティアコーディネーター)の体験を交えた講演がなされました。2011(平成23)年の東日本大震災の発生からおおよそ1000日がたちましたが、講演の冒頭でこの時間の経過を「もう」と感じるか「まだ」と感じるかと問われ、出席者はあらためて忘れてはならない大切なことがあるのを強く思い起こしました。この後、阪神淡路大震災及び東日本大震災の様子を伝える映像とともに、被害と災害ボランティアの状況について説明がなされ、被災地に対して今私たちができること、地震の仕組みをふまえて今私たちが自らの生活において取組まなければならないことについて分かりやすく示されました。自分の命は自分で守る意識を持つこと、家具の固定や防災備品の用意などできることを今すぐしておくこと、いざというとき困っている人を助けられる勇気を持つことなど、前半の実践発表と重ねて大変示唆に富む講演となりました。



市川南小(樋川教頭)と市川南中(石原教頭)による事例発表

地域で学校を支える 学校応援団 文部大臣表彰

みんなで大河内の子どもを育てる協議会

身延町では、文部科学省が進める「学校支援地域本部」にかかる取組として、平成22年度から地域による「学校応援団」の活動を進めてきました。これは学校と地域住民を結びつけて学校教育の充実・生涯学習社会の実現・地域の教育力の充実を図るとともに、いかに地域ぐるみで健やかな子どもの育成を図っていくかを探るものです。

モデル地区として大河内地区が設定され、「みんなで大河内子どもを育てる協議会」が設立されました。さらに地区内の8つの集落ごとに「地区の子どもをみんなで育てる会」が組織され、各区の公民館長・区長・育成会役員等を中心とした子どもを育み学校を支援する体制が整えられてきました。具体的には、地域住民の意識アンケートの実施と実態把握、学校支援ボランティア研修の実施、集落ごとの独自の取組の検討など、実践的なことが精力的に進められました。そして各集落で、**子どもの存在を確認する、子どもに名前呼びかける、気持ちのよい挨拶を行う**、といったことが行われ、こうしたことは家庭や学校における子どもたちの意識や生活態度に明らかな効果をもたらしたそうです。

平成24年度までの3か年にわたるこうした取組の実績が高く評価されて、平成25年度文部科学大臣表彰を受けることとなりました。12月5日に文部科学省において行われた伝達式には、身延町教育研修センターの千須和繁先生と大河内小学校の北川校長が出席し、各都道府県の実践とともに表彰を受けました。(写真は大河内小提供)

北川校長は「事業としての取組そのものは平成24年度で一区切りついているが、この表彰を契機として今後さらに息の長い実践的な学校応援団の活動を地域にお願いし、ともに進めていきたい」と感想を述べていました。



市川三郷町教育委員会

「リズムテコンドー」で安心・安全のトレーニング 放課後子どもプランの取組

市川三郷町教育委員会では、放課後等における安心・安全で健やかな子どもの居場所を設け、地域の方々や子どもたち同士の交流を図りながら、勉強やスポーツ、文化活動などの取り組みを推進していく教育の場として「たのしい教室」を開催しています。この事業は、文部科学省「放課後子ども教室推進事業」を受けて実施しているもので、木曜日

に企画された内容は、「リズムテコンドー」。この日の講師は、「リズムオブラブ」所属の渡辺一仁さんです。「リズムオブラブ」とは、幼児から高齢者まですべての方を対象に、「かけがえない命を大切にできる心と体づくり」をコンセプトに、山梨発信の**健康安全郷育プログラム**を提供している団体です。

当日参加した26名の子どもたちは、「たのしい教室」教育活動サポーターの方々と一緒に、リズムカルな音楽に合わせてながら、スキンシップを図ったり、ゲームを通して危険回避能力を身につけたり、さらには、「キックミット」という器具を使いながらセルフディフェンス(護身)を学んだり「命の大切さ、身を守る」をテーマにプログラムに沿って「安心・安全のトレーニング」を体験しました。

「イチ、ニ、サン、キック イチ、ニ、サン、キック」足の甲を使いながら、キックミットを蹴り上げる姿は、まさに「テコンドー」そのもの。今回は、1・2年生の子どもたちが中心でしたが、活動が終わった後の表情は、とても満足そうでした。



まずは挨拶からはじまります

日を活動基準日とし、町内6地区でそれぞれ年15回、たいこ教室、花植え、クッキングなど様々な体験活動が計画されています。

12月5日午後3時から市川大門町民会館において、市川小学校児童を対象

市川三郷町 三珠保育所

世代を超えたふれあいを!! 高齢者と合同の交通安全教室

市川三郷町立三珠保育所は、町の社会福祉協議会とともに、園児と高齢者の交流による交通安全教室を開催しました。これは、核家族化が進みお年寄りとおふれあう機会が少なくなった子どもたちが増えていることや、子どもたちから元気パワーをもらうことを楽しみにする高齢者の要望などもあって、これまでそれぞれ個別に行われていた交通安全教室を合同で開催することにしたものです。



ケンちゃん人形との握手

次に女性のお巡りさんが、一緒に登場した「ケンちゃん人形」と交通安全で学んだことをもう一度確認しました。巧みなケンちゃんの腹話術と、その後に行われた見事な手品に子どもたちはもちろん高齢者の方も引き込まれて、しっかり交通安全について学ぶことができました。

11月7日、県警の警察官を講師として三珠保育所で開かれた交通安全教室には、園児49人とともに三珠老人クラブ連合会の13人の高齢者が参加しました。

まず男性のお巡りさんから、園児に「命を守る勉強」として、①道路で遊ばない、②とび出しはしない、③横断歩道を渡ろう、④右側を歩こう、という4つの約束の話がありました。同じく高齢者に対しては、道路横断中にはねられる事故が多発している現状についての説明があり、その原因となっている**横断歩道のない場所での横断や車が接近しているのを見誤って道路を渡ってしまうこと**などに十分注意する必要があること、日頃から蛍光反射付というような目立つ服装を心がけることなどの留意点が示されました。

さて、交通安全教室の後は、お楽しみの交流会です。園児による歌が披露され、じゃんけんや握手、肩を組んだり頬を寄せ合ったりと温かいふれあいが行われ、お遊戯室はしばし笑いとお歓声とに包まれました。老人クラブの会長さんは、「交通安全教室であらためて重要なことを学べた。何より園児のみなさんから、パワーをいただいた。2時間ほんとうに楽しく過ごすことができた」と挨拶をしました。最後に子どもたちは交通安全協会や老人クラブの方から、笑顔でプレゼントをいただきました。



心温まる交流会の様子

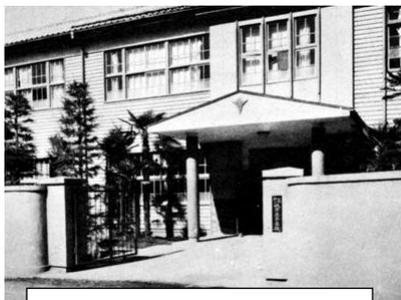
峡南高校 創立90周年 記念式典挙行

地域に根ざし、地域とともに歩んだ90年

峡南高校(矢野博文校長)は、今年学校創立90周年を迎え、11月14日に記念式典を行いました。

同校は1923(大正12)年4月、久那土村外七箇村組合立峡南農工学校として、現在の久那土小学校がある場所に教室を間借りする形で開校しました。実は、その前年に県から中学校(旧制)の峡南地域への設置方針が示されたのですが、各地における熱心な誘致活動の中で身延中学校(現・身延高校)の設置が決まったことにより、これとは別に峡南地域北部に新たに実業学校を作ろうという地域の人々の活動がはじまり、ここに峡南高校の誕生の端緒がみられます。

地域の若者の向学心や進学意欲を何としても支えていきたいとする地元の強い要望がその背景にあり、他県の学校視察を手始めに、地域住民への寄付の呼びかけ、文部省への認可申請など、学校設立に向けての取組はいずれ



旧校舎の正門(峡南高校HPより)

も地元主導で進められました。寄付も予定を上回る額が集ったそうです。ほどなく校舎の新設と県立移管による学校基盤の強化、教員人材の確保、幅広い学生の就学実現など、学校

の基礎が次第に整備され、戦後になると学制改革とともに峡南農工高等学校、ついで1957(昭和32)年に峡南高等学校と改称、さらに1972(昭和47)年に現在の場所に校舎新築とともに移転して今日に至っています。この間、学校拡充と学科再編がたびたび行われてきましたが、その設立経過からもわかる通り、同校は一貫して地域の方々の特別な思いと深い結びつきに支えられてきたといえます。また、脈々として受け継がれてきた、「質実剛健・勤労愛」という校訓の精神も地域と時代の要請に応じていこうとする情熱のあらわれといえましょう。

記念式典は、県・地域市町村・中学校及び高等学校関係者・同窓会及びPTAなどのほか地域住民の出席も得て盛大に行われました。また、午後には記念公演としてスチールパンオーケストラの演奏会があり、華やかで躍動感のある音楽に学校全体が包まれました。式典に参加した生徒の「90年という歴史の重みを受け継ぐことの大切さをあらためて感じた」と話してくれたことがとても印象的でした。



生徒代表の挨拶(生徒会長)

身延高校 ライフミュージアム2013開催

学校全体が博物館・美術館になります！

身延高校(佐野純一校長)では、10月16～22日に「ライフミュージアム2013」が開催されました。同校の恒例になっているこの行事は、数年前に「学校美術館構想」としてスタートし、たいへん意欲的でユニークな取組として注目されてきました。その後生徒の美術や書道に関する作品だけでなく、家庭科の学習成果や部活動・学園祭などの諸活動の成果もあわせて展示して紹介するように発展しており、学校の活性化が図られるとともに、一般公開して保護者や地域をはじめ近隣の小中学生や幼児にも広く学校を訪れてもらい、身延高校の様子を身近に知ってもらう大変よい機会になっています。

今年のライフミュージアムでは、美術部門の特別展として中根一政氏をお招きし、アーティストトークの講師をお願いするとともに現代の物質文明を象徴するような興味深い、多くの彫像作品の展示が行われました。

書道部門では多くの生徒の筆によって、心を込めて校歌

を書き綴った共同作品が展示され、たいへん印象的でした。

また、家庭部門では10月18日の午後に山梨大学教育人間科学部の鳥海順子教授をお招きして、ライフミュージアムの基調講演

会が行われました。「楽しい高校生活を送るために～自分らしくあることを考えよう～」と題された講演では、事前に行われたアンケート結果から学年が進むにつれて学校生活の満足度が高くなっている身延高校の生徒の現状が紹介され、その上で自分らしく生きるとはどのようなことかについて様々な角度からの話がなされました。そして自己肯定感を育むことの大切さが強調され、分かりやすい説明に、参加していた生徒は深く頷いていました。生徒代表によるお礼の言葉では、より前向きな高校生活が送れそうだと感謝が述べられました。家庭部門ではこのほか生徒の作品展示、エコキャンドルを作るワークショップや調理実習(12月)が行われました。



生徒代表が講演会のお礼を述べる様子



10月18日には、身延小学校4年生のミュージアム見学授業が行われました。



増穂商業高校 子育て体験学習

増穂商業高校(佐久間豊人校長)で、10月15・21・30日の3日間にわたり「子育て体験学習」が行われ、全3年生4クラスの114人の生徒が参加しました。これは、4年前に富士川町子育て支援課の呼びかけに学校側が応じる形で準備・計画されたもので、平成23年度から実施されています。町の助産師・保健師の指導のもと、多くのお母さんと赤ちゃん、そして妊婦さんの協力を得て、「命の大切さ」を中心に講義・グループワークや体験学習を通して親の役割や親としての責任について学ぶ場となってきました。発達段階から見て、高校生は出産や育児をより身近かに考えられる年齢に達しており、より高い教育効果が期待できるものと考えられます。学習のはじめにまず、町の松井助産師から「近い将来親になる皆さんに、親になる前に命の大切さ、親になる幸せや責任を理解してほしい」という目的が示されました。

これに続いて、①妊娠・出産の基礎的な知識(妊娠経過と胎児の



命の大切さと社会の一員としての責任を学ぶ

成長過程・妊婦さんへのインタビューと胎児心音聴取・親になることの自覚と必要条件の検討)、②子どもの成長と発達の理解、③プレ実習(学校備品の赤ちゃん人形や妊婦体験ベストを用いた、赤ちゃん抱っことおむつ替えの練習・妊婦体験)、④赤ちゃん抱っこ体験(お母さん・赤ちゃんとの交流)といった内容について2時間の計画で学習が進められました。具体的な学習内容は、同校の早川教諭と町の助産師・保健師が学習プランを練り毎年改善を重ねてきたそうです。今年度は特に、妊婦さんの協力を得ることができ、胎児の心音を聞いた生徒は命の大切さをより深く感じることができました。



シミュレーター(妊婦ベスト)を用いた妊婦体験

学習の中で、結婚・出産・育児に必要なことは何かという質問に対し、「お金や経済力、正しい知識、愛情、責任、家族関係、お互いの気持ち、まわりの意見、生活の安定、医療、周囲の支え、親としての忍耐、精神的な強さ」などの答えが生徒から発せられ、かわいいだけではできない、子育ての社会的な責任の自覚や命を育む重要性が、生徒一人ひとりに強く印象づけられていました。

平成25年度 第46回 関東甲信越静岡地区 子ども会育成研究協議会

10月20・21日の両日、第46回関東甲信越静岡地区子ども会育成研究協議会(スローガン:『富士の国やまなし発!子どもの自立と社会性』)が甲府市内で開催されました。この大会は山梨県子どもクラブ指導



開会式

者連絡協議会(小林博夫会長)を中心に多くの育成関係者や市町村担当者の企画・運営協力のもと開かれたもので、メイン会場となった甲府富士屋ホテルには各地から350人を越える参加者が集まりました。(写真は2枚とも同協議会提供)

開会式では、県立甲府西高校ダンス部と中央市ジュニアリーダー会のコラボによるダンス、昭和町の子供達による「笑和太鼓」、韮崎の小学生からお母さんまで幅広いメンバーが参加している「いらさき秀麗(よさこいチーム)」の演技など

が披露され、参加者の盛大な拍手に包まれました。続く研究協議は、テーマ別に2つの部会にわかれ、県立文学館・風土記の丘研修センターの2会場でパネルディスカッションが行われました。それぞれ3名のパネラーとともに子ども達の自立と、社会性を育む子ども会活動のあるべき姿についての熱心な協議が繰り返されました。

2日目の記念講演では、茨城大学生涯学習教育研究センターの長谷川幸介教授による、「子どもを支える3つの力」と題した、一人前になること(社会化・文化化)の仕組み、社会化・文化化を支える3つの場(学校・家庭・地域社会)、さらに、子どもが育つ3つの力(学力・自己肯定力・社会力)、地域の役割、子どもの力と子どもクラブの役割といったことについての興味深い講演が行われました。次年度の第47回大会は千葉県において開催される予定です。



第1部会 パネルディスカッションの様子

子育て学習会開催のお知らせ

峡南地域教育推進連絡協議会と峡南教育事務所は、下記の予定で平成25年度の「子育て学習会」を開催します。乳幼児の心や身体の発達に関する理解を深め、子どもの健やかな発達に繋がる対応ができるよう学び合う機会となればと考えます。関心のある多くの方の参加をお待ちしております。

峡南地区 北ブロック

日時：平成26年2月6日(木) 19:10~受付
会場：かじかざわ児童センター2F多目的ホール

富士川町鯉沢1091-1 TEL0556-22-0809

講演：山梨県立大学人間福祉学部保育学講師
新藤 京子 氏

申込締切：1月31日 保育所(園)・幼稚園関係は1月28日までに各園に申込み、各園はまとめて1月31日までに教育事務所へご連絡ください

峡南地区 南ブロック

日時：平成26年2月13日(木) 19:10~受付
会場：身延町総合文化会館2F会議室

身延町波木井407 TEL0556-62-2110

講演：山梨大学保健管理センター 臨床心理士
伊藤 美佳 氏

申込締切：2月4日 保育所(園)・幼稚園関係は1月31日までに各園に申込み、各園はまとめて2月4日までに教育事務所へご連絡ください

申込み・問合せ先：峡南教育事務所地域教育支援担当 TEL0556-22-8154 FAX0556-22-8144